



（行發日五十四一月每）
印刷人 大和田興兵衛
印刷所 大和田印刷所
電話 七二九番

昭和十四年 筆陣第一聲

御機成練々として躍進の新
年を迎ふ。其の躍進を時局に照
給ふ。而も『皇國臣民の忠誠
に倚りし所の目的を達成せ
んことを期す』と宣へる事勿
體なしとも勿體なし。

兎は走り鳥は飛ぶ。人事依
稀として速きこと雷の如しと
かや。事變以來茲に第二の春
を迎へ、四萬七千三百三十の
英魂呼べど歸らず。

衆議院議を以て陸海軍に
對する感謝と戦死者に對する
敬申の意を宣ふ。民意を代表
してなり。

決議する者、敬申する者、
父とし兄として、その子その
弟を國事に捧ぐる心、事壯とい
ふべし。

二千六百年前國の御柱を建
て給へる神武の大使命を永遠

に振起せむ爲のこの國の柱よ
韓國の礎となるならば、
十萬三十萬、誰かこれを多し
とせばむ。

この年をさきはへことばが
むには、先づ國の内外の積弊
と積弊とを排除すべし。

對戦とせず。世界大戰
再開不可避のこの危機に際し
て、平和の迷途尚ほ覚めぬや
うでは議會の民意代表も本當
ではなし。

戸板一枚で世界に澎湃たる
大潮流をせき止むこと、英
米佛等の不認識と異るところ
なし。

滿蒙移民 訓練所と 其首腦者

支那事變は所謂初めなく終り
なき戦争である。將政權が破
滅しようとしまいと皇軍占領
地區の治安は日本軍によつて

……てしに正露 に「トツモ」を平公

十九歳までの元氣溢れる
青少年が初めて入所した。それ
以來引續き多数の義勇軍が其
所の日輪兵舎で訓練せられて
滿蒙の新天地に送られるに到
つた。それと同時にその事業
が新聞誌に於て盛んに宣傳
せられたからその所在地の内
原までが俄然全国的にその名
を知られるに到つた。

○其所の所長は申すまでもな
く滿蒙移民の元祖たる加藤元
治氏である。氏は果して如何
なる経歴を有する人物である
か、顧みれば昭和七年の春滿
洲事變の萌芽未だ冷めやらぬ
北支那の激戦の最中、二十
餘歳の若人青年があつた。こ
の指導者こそ今日移民の父と
して仰がれて居る加藤氏であ
つた。當時奉天にあつた石原
完爾少將はこれを驚愕した男
やといふのである。日加藤氏を
呼んで事情を聞いて見た。所
が彼は熱意を以てその抱懐す
る大陸の移民策を論議。然
と説いたのだ。これに深く
感動された石原は當時自衛移
民を計畫して居た東宮大佐に
紹介した。（其後東宮は二聯
隊付に勳勳船出征して終に
名譽の戦死を遂げられた）此
所に加藤と東宮は意氣投合し
て初めて二人の摩訶手が成
立した。爾來加藤は東宮大佐
の良き女房として官民間を

駆け廻り當時の荒木陸相を
動かし、或は拓務大藏の兩省
を説服して終に最初の自衛移
民の渡満を見るに到らしめた
○加藤は豊前大學卒業後山崎
延吉の安城農學院に教授を
執つて居た。内地の無限に膨
れ行く人口の増加と限りある
耕地面積との大なる矛盾の打
開は大陸移民以外に方法がな
いとの見解から、彼は先づ自
費を投じて山形に移民訓練所
を開設して海外移民の子弟教
育に乗り出したのだ。その
後自費を得たので僅千圓足ら
ずの金を工面數十名の青年を
引連れて朝鮮開拓に出た。
其所では總督府から不毛の土
地を譲り受け、幸苦やつと
自給自足の状態にまで築き上
げた。その頃丁度昭和六年九
月十八日北支那の一發から滿
洲事變が勃發。それを機会に
彼は終に青年同志を引連れて
渡満した。それが彼の踏み來
つた経歴の概略である。ソ聯
及び支那を控へて我が滿洲移
民の國策は極めて重大なる意
義を有するものである。拓務
省の二十ヶ年百萬人（五百萬
人）移民計畫も已に第三年度
に入りて輝やかしい成績を舉
げて居る。この國策に順應し
加藤は今や内原訓練所長とし
て銳意青年移民の訓練に取
組まれて居る。かくて今日滿
蒙の移民を語るに當て彼の成

績は際して無視する事の出来
ないものとなつたのである。

本縣選出兩
院議員宿所
△貴族院議員
金 成 通（研究會）
本郷區駒込曙町二八
電話（大塚）五〇二
油 井 德藏（公正會）
福島市大町
△衆議院議員
釘 本 衛雄（民政）
第一區選出
鎌谷區原宿二一七〇
電話（青山）二八二〇
堀 切 善兵衛（政友）
牛込區市ヶ谷田町二ノ五
電話（牛込）二八五〇
栗 山 博（民政）
鎌谷區代々木初原町五五
電話（四谷）八二二〇
（第二區選出）
林 平 馬（民政）
目黒區洗足町一四六四
電話（荏原）二九五〇
中野 實吉（第一議員俱樂部）
下谷區中清水町一四
電話（下谷）一〇一〇
仲 西 三 良（民政）
下谷區西町一五
電話（下谷）五三三七
助 川 啓 四郎（政友）
澁野川區田端町一四四
電話（駒込）七〇二
（第三區選出）
比 呂 平（民政）
牛込區新小川町二ノ八
電話（牛込）四一七〇
星 本郷區駒込曙町三
電話（大塚）五八〇七
山 田 六 郎（民政）
足立區千住町三ノ七五
電話（足立）二五〇四

全國的優良無盡會社

益々發展躍進の湯本

湯本町所在湯本信用無盡株式會社は、經營實績の鈴木康平社長、手腕力量を多分に有する比佐司常務兼主務部及部下社員一同協力一致の奮闘によつて、全額指の一大優良會社として主務省からも折紙を付けられて居る程で、業績の優秀は同業者間競争の的となつてゐる。由來無盡の本質は募集集金、給付の三要素に對する機構を圓滑迅速に進行するにあり、その經營の任に當れる首脳部が先づ第一に募集は行詰まらぬ様、集金の成績も低下せぬ様、給付に當ても被給付人の好意を失はぬ様な立派な細心な注意に然る經營態様の匡濟や庶民金融問題の解決等の一大眼目を以て共存共榮の中産階級の金融界に寄與し純然たる會社利潤の營利的方針を探り居らざる處に躍進振りを現して居るのである。而して是れを數字の上から檢討するならば前回は六百五十萬圓の契約高に對し昭和十三年末日に於ける現在高は八百五十萬圓で本年中には一千萬圓を突破すると云ふ素晴らしい發展振りを現して居る。

日捐二圓五ヶ年々限のを目下募集中である、これ全く時世の要求するもので監督官廳としても會社内容を調査研究の結果許可を與へたものであらう、さればである庶民金融からも法規の實施と共に此種三萬圓を融資された信用と名譽とを獲得した程である、斯くも隆盛發展の社會を見る以所のものに重役を始め社員一同が常に親和協力をモットーによく敬神祖の清き心を業務上にも現し毎年元旦には社員中より明治神宮に参拝祝詞文を贈呈せしめ又元旦日の日の出の海濱に朝拜して宣言文を朗讀させ一年の業績に心からなる誓へをなすが如き精神方面の明朗化にも社會の概略が窺知されるのである。

祝詞文

慶みて第二の神武天皇とも仰ぎ奉る明治大帝御尊靈の大御前に、皇紀二千五百九十九年元旦の祝詞を捧る。今や我國は神武天皇建國の大詔に宜らせ給へる人類同善四海一家の大理想を實行すべき機運に會し、昨夏東京を支那大陸に進め其の要衝は悉く我が制壓下に歸し皇

宣言

昭和十四年元旦、旭日臨々として東天に昇る我國運の興隆に似たり

期待さる幹事長

縣會議員小野澤平氏は政友會福島縣支部の幹事長となつた期待さる、處が多い、これは氏の人物が大きい點と政治的にも經濟的にも偉大な手腕と有するからである。幹事長と云へば不明朗政治資金調達に奔走して居たかの觀があつたが氏は是等を斷然擯棄して私財年分一千餘圓を散ると云つてゐる氏が幹事長就任の所

由來我國は日の國にして旭日は即ち我が國旗なり太陽は熱と光との根源にして森羅萬象爲に生々たり我日本國體は世界絕對平和の實體にして至人類に幸福と恵光とを與ふる亦なる哉太陽は先づ日本の國土を照らし漸を追ひて朝鮮滿洲支那に及び而して全世界に及ぶ我が國體の恵光が漸次世界を掩ふ事を示すが如し我等極東の國日本に生れ今茲に立つて今年に於ける世界最初の旭光を浴ぶこの意氣を以て一年に披日本精神の下に努力を傾倒し以て國運に裨せんことを誓ふ

幹事長

縣會議員小野澤平氏は政友會福島縣支部の幹事長となつた期待さる、處が多い、これは氏の人物が大きい點と政治的にも經濟的にも偉大な手腕と有するからである。幹事長と云へば不明朗政治資金調達に奔走して居たかの觀があつたが氏は是等を斷然擯棄して私財年分一千餘圓を散ると云つてゐる氏が幹事長就任の所

りて存候

而して今日の時難克服に必要なる諸般の政策に検討を加へ興隆日本の新國策樹立の實に任じ盛んに經綸を行ふの實力と氣魄とを養ひ一は以て立憲國日本を完成し一は以て立憲困憊せる地方民衆の福利幸福を期せざる可らずと存候素より今日の純戰時體制下に於ては外交と云はず財政經濟と云はず廣く物心兩面に亘り百般的政策悉く國策遂行の線に溯ふて決定するの必要なることは今更論なしと存候。其此の際新政策樹立の爲調査解決を要すべき地方問題としては

- 一、物資の配給及物價調節の問題
- 二、金融政策の問題
- 三、農山漁村對策一新の問題
- 四、中小商工業者の生業保全の問題
- 五、生計力増進とその發行の傾向是正の問題
- 六、地方自治の均衡と税制の根本的建直の問題
- 七、労働その他地方に於ける社會政策確立の問題
- 八、戦死傷病者及遺家族の扶助授産の問題
- 九、長期理職に對する地方民の積極的活力發揮の問題
- 十、事變下に於ける地方民生活安定の問題

等でありと存候之等諸般の問題に對し深き検討を加へ積極不退轉の態度を以て夫々適當なる決定を與ふることは今日焦眉の急務なりと相信し中候先づは支部幹事長就任に當り所懐の一端を申上げ御指示を仰ぐと共に今後黨務上の御鞭撻を賜り度此致不取敢書中を以て得貴意候

製薬王の星氏は語る

本縣第三區選出、石城郡錦村出身の衆議院議員星一氏は、星製薬株式会社社長として、戦争と長期建設を併行しつつある現在及将来に於て、彼地に緊要の問題は流行病の蔓延で是れにキニーネが欠くべからざるものとして左の如き談話を發表して居る。製薬界を念頭として居る氏は一方又地方選出代議士として地方の振興發展には些々たる情實、區々たる利害關係を超越し、眞に大衆的見地よりよく奮闘して居る地方氏は氏に依存する處が多い。其一例に片断通り平小鐵道運動には現在第一級に努力して居る。

十六年前からキニーネ栽培

日本が支那の奥地の何處までも南洋や印度の方までも進出しなければならぬことは云ふ迄もないが、進出發展に必要なもの、一つにキニーネがある、多くの人は進出には資本が先立つことを思ひ資本に重きを置く傾向があるが資本よりも技術よりも大切なことは健康である、支那には河あり海ありクリクありでマラリアの培養地と云つてもよい程、養生の可能性がある南洋は云ふ迄もない故に日本の製薬会社が支那南洋への日本人の發展進出のため、マラリアの特効薬たるキニーネの原料キニーネ栽培に力を注ぐことは當然である。

そこで當社は十六年前からキニーネ栽培の必要性を熱心に昭示し、臺灣總督府や陸海軍、内務省等に陳情した、

以ては臺灣のキニーネ栽培は見込なしとして、當社の事業を阻止し土地も取り上げんとした。製薬の主務である内務省に陳情しても之も殆ど問題にしなかつた。然し私はキニーネなしに日本の發展は出来ぬと信じ、又臺灣のキニーネ栽培が有望なことを経験から信じてゐたので、總督府に眼力を加へて私が事業を推進するやう仕向けても頭として進まなかつた。

今より數年前、松井大將が臺灣軍司令官をされてゐた時代であつた、當時私は臺灣に大規模な計畫を樹て、總督府に示したが、その案は松井司令官からも支持され司令官としても總督府に對し當社の計畫に關し申入れする所であつた、私はその時總督府に向つても臺灣軍司令部に向つても「私のいふよりに栽培させて下さい、一朝必要の時が来れば二年生、三年生の小さい樹から薬を採つて需要を充しませよ」と云つたのであつたが、しかし總督府は私の要求を容れず、寧ろ拒絶せんとしたほどであつた。

支那はマラリア國、キニーネが必要、その後臺灣の文官總督が代つて小林武官總督になりキニーネ栽培につき公平な批判を受けられることになつた所へ、臺灣殖産株式會社も出来た、そこで私は臺灣殖産の方と種々話合つた、初めは臺灣殖産も私の要求を充分認識して居るまゝに行かなかつたが、支那事務の重要性を認識し臺灣殖産も理解する事になつたのである。

と云ふ話だつたので私は日本内地への輸入防遏等といはずに支那四億の民がマラリアで苦しんでゐるのだからせめて半分二億の支那人がマラリアから救はれるよう考慮して呉れ、と大いに論じたこともあつた。今日支那事務でキニーネが如何に重要な役割を果しつつあるかは私からいふまでもあるまい、出征勇士に對しても亦支那に進出せんとする人々にキニーネの供給は充分に行かぬ、國內でも不足してゐる。若し私の主張通り臺灣でキニーネ栽培を行つたら、どんなに仕合せであつたらう、そして高いキニーネを外國から買ふ必要もなかつたらうと痛感してゐる、國家は常に國策を以て進まねばならぬのだが、どうかすると資本主義的に陷る嫌がある、國家から云へば臺灣のキニーネ事業などは當然重視されねばならぬのに、それが無視されると云ふのは畢竟資本的打算からであらう、資本的打算は今日の利益の計算であつて將來の利益の計算でない場合が多い。

健康報國を念願、支那をどうするかと云ふ事は大きな問題だ、私はこの爲「お母さんの御つた日本日本略史」を書き、その後「支那の歴史」を書いて見

臺灣に於けるキニーネ栽培に就ては臺北帝大の植林科でも試験し總督府でも試験して見込なしと云つたが、私はキニーネの必要を痛感するが故に斷じてやらうと固く決心し、總督府の技師で後に職託をしてゐた植物學者田代安定氏と陸軍衛生材料廠長たりし猪田益吉氏も臺灣に招聘し、一緒に山を覗いて廻りその適地を捜し、田代氏に依頼して大正九年瓜哇に行つて貰つてキニーネ栽培を研究し、種子と苗木を購入し、臺灣南岸のライ社山の官有地を借り着人を使用して栽培に着手した、それが有望なので更に臺東廳の知本でも初めたのであつた。認識されなかつた。

キニーネの重要性、これに對して臺灣總督府は餘り將來を期待せず、大正十五年頃臺灣に大暴風雨があつた

た、事變の始まつた時議會で、今度の戦争は始めあつて終りが無い故に、軍隊と共に先づ印刷機械を持つて行き銀行を建てよと叫んだ。そして又、バラックでいいから家を百萬も造つて日本人の住せよとも唱へた。日本人が支那、南洋、印度にまで進出するには薬が必要だ、その中でもキニーネは必要だ、世界の歴史でも戦は勝つたが病氣に負けて歸つたと云ふこともある。健康は何よりも大事だ、そこで當社は健康報國を叫んでゐる。私、私が大和民族は二、三、三十年のうちに一億五千萬人位まで殖えねばならぬと思ふ、そのうち一億は内地で生活し五千萬は海外で生活すると云ふ具合でなければならぬと思ふが、それには國民の健康が非常に重要である。

員人其と税市平、たしまりなにか償が本建てれ買に様ぶ飛、自てつさ下て求おは方いならなに覽ごだまに常非いなな覽ごてし較比をの様人他や分、すり。

社業實之城磐 元資販行發
番九二七話電・町仲平